



SOCIETY FOR INFORMATION DISPLAY

# ニュースレター

発行元 : SID日本支部  
 発行責任者 : 下平 美文  
 発行日 : 2004年10月25日

日本支部

第 27 号

## SID 会長に就任して

電気通信大学 御子柴茂生



### 1. なぜ日本から？

2004年5月に開催されたSID年次総会において、会長に就任することとなった。任期は2年、2006年5月の年次総会で後任のDr. Larry Weberに引き継ぐ。SIDは1964年創立、今年で41年となる。小職は24代目会長にあたる。過去の会長の内22名が米国人、1名が英国人であり、アジア地区、あるいは非英語圏からの会長は今回が初めてである。

学会の主な活動として会議開催や論文誌発行などがある。何年か前にはこれらのほとんどをアメリカ人委員が担当していた。しかし日本支部会員数がある程度増えると、学会運営や役職も応分に分担せねばならない。ちなみに2004年5月現在の会員は42カ国7127名、うち日本支部会員は1193名で全体の16%

を占める、SID最大の支部である。会員数のみならず、ディスプレイ研究・開発および生産拠点がアジア地区に移っていることを考慮しても、日本が応分の責任を果たすことが望ましい。

もちろん、日本からも世界に向けた種々の役割を既に果たしてきている。映像情報メディア学会と共催するInternational Display Workshops (IDW)は、日本から世界への情報発信、情報交換の重要な場である。前田誠氏はアジア地区副会長として学会の運営に携わっておられる。また春のSIDシンポジウム論文選考等には、アジア地区プログラム委員会が設けられている。

### 2. 会長の職務内容

ディスプレイ関連産業は急成長しつつある。SIDはこのディスプレイに関して研究・開発からビジネスに至るまで世界の最先端分野を取り扱う。全会員数はたとえばIEEEと比べればそれ程は多くないが、ディスプレイに関連する分野のみを取り扱う、という切り口で見れば必ずば抜けて多い。SIDには、世界のディスプレイ関連産業の振興を担うという任務が課せられている。

全26支部のDirectorが集まるBoard of Directors Meetingは最高議決機関であり、年3回開催される。総勢40名を越え、6時間におよぶ大きな会議である。SIDの中枢の役割を果たすExecutive Committeeの委員会はやはり年3回であるが、ほぼ毎日メールがとびかう。SIDには13の常置委員会活動があり、常時種々のプロジェクトを遂行している。これら委員会の方向付けも会長の職務である。

### 3. 任期中の重点化項目

#### (1) 会員の特典増加

会員は既に、Journal of SIDやInformation Display誌配布などの特典を有している。会員の特典をさらに増やすべく、これら出版物の電子化を進めている。また学会講演やセミナーをビデオ撮影し、当日のプレゼンテーション資料と共にwebあるいはVTRで流すという作業も進行中である。

#### (2) 会議のグローバル化

FPDの生産拠点は激しく移動しつつある。このような情勢の下で会議開催の場所と時間を適切に選択せねばならない。地域別に見ると、アメリカはディスプレイのアプリケーション、システム、起業などに重点を移しつつある。またアジアは研究・開発および生産技術を、ヨーロッパは研究・開発を重点化するよう、グローバルな観点から再構成している。今後FPDの生産拠点となるであろう中国本土、およびインドに対しては、特に活動の強化を図る。

#### (3) 出版物の質向上

Journal of SIDは電子出版への移行を契機に、編集委員会の増強、投稿から掲載までの期間短縮、論文のカラー化、検索機能の強化、基礎研究よりの論文発掘、citation indexへの登録、季刊誌から月刊誌への移行などを目指している。Information DisplayはEditorial Advisory BoardおよびEditorial Review Boardの創設により内容の大幅な見直しと充実を図りつつある。

以上所信を述べた。しかしこれらはもちろん一人でできるようなことではない。会員諸氏のご指導とご助力をお願いしたい。

## 2003 SID Award 受賞者の声



**Karl Ferdinand Braun Prize** 中村 修二 (カリフォルニア大学サンタバーバラ校)  
SIDの名誉ある賞を受賞し、非常に光栄です。青色LEDがディスプレイに益々応用されることを期待しております。現在、青色LEDを利用した白色LEDは発光効率70ルーメン/Wぐらいまでになっております。この効率はほぼ蛍光光と同等です。まだこの発光効率は年々、上がっています。そうすると益々応用範囲が広がっていくと思います。LCDバックライトとしては、二種類の白色LEDが使用されています。蛍光体と組み合わせたものと、青、緑、赤色LEDから成る白色LEDです。今後はこの二種類の白色LEDが用途に応じて使い分けられて行くと思います。環境に優しい材料である青色LEDの応用が広がることを期待しております。



**Jan Rajchman Prize** 内田 龍男 (東北大学)  
Jan Rajchman Prize の受賞はSID 日本支部の皆様のお支援助のおかげです。紙面をお借りして、心から御礼申し上げます。

思えば半導体の研究をしたくて電子工学科の研究室に入り、1年後には阿弥陀くじにはずれて液晶の研究をするはめになりました。それから、30有余年。液晶のおかげで分子間相互作用、表面科学、弾性理論、偏光光学、拡散光学、吸収スペクトル光学、誘電体理論、カラー認識、画像工学、電子回路学、固体物性、電子物性、伝送工学、計測工学など広い分野の勉強をさせて頂き、講義も担当してきました。途中、液晶の配向制御や配向力測定法の提案、セル内面カラーフィルタによるLCDのカラー化、反射型カラーLCDの基本方式の提案などをさせて頂きましたが、その度に厳しい御批判を頂くのが常でした。しかし、それが糧となって、皆様のご支援も頂き、より大きな発展につなげることができました。

まだまだ最高におもしろく、発展の可能性が限りなく開かれている分野です。今後とも、皆様と共にディスプレイの発展のために努めていきたいと存じます。よろしくお願いたします。



**Johann Gutenberg Prize** 沓掛 正樹 (大日本印刷株式会社)

今回賞を頂いた技術・製品は、染料昇華転写型材料による感熱プリントシステムです。あまり馴染みがないかもしれませんが、プリクラに使われている記録材料といえば思い当たる方も多いのではないのでしょうか。IDカードや、運転免許証など意外と身近なところでも使われています。最近ではカメラ量販店などにプリント端末が設置され始め、デジカメなどの映像を、その場で簡単に、階調整豊かなフルカラーのプリントに出力できます。

色再現に優れた機能性染料の開発や、感度が高くかつ保存性が良い受容層の開発などの材料開発や精密塗布など様々な加工技術の開発により実用化できた記録材料です。更にサーマルヘッドなどのキーデバイスメーカーや、プリンターメーカーなど、様々な企業の皆様の協働があったからこそ初めて商品化できたものであり、この場をお借りして御礼申し上げます。名誉ある賞を頂き技術面で高く評価されたことは、開発や事業化に携わった数多くのメンバーの大きな誇りであり、一層の普及を目指して取り組んでいる者にとって大きな励みになるものと考えております。



**Fellow of the SID** 松浦 昌孝 (シャープ株式会社)

液晶ディスプレイデバイスの開発に従事してから30年余りが過ぎました。この間、DSM液晶の実用化、TFT液晶のカラー化、STN液晶のB/W、カラー化、TFT反射型液晶のカラー化等、開発競争が熾烈な中で、胸をわくわくさせ液晶の研究開発に従事してきたことを昨日のように思えます。今回、大変名誉ある賞を頂き身に余る光栄と大変感謝しております。ご推薦頂きましたSID日本支部の皆様方、ならびに、共に開発に従事した同僚、先輩方、叱咤激励しご指導賜りました先生方に感謝申し上げます。今後もSIDのますますの発展を祈るとともに、微力ながらお役に立てればと思っておりますのでよろしくご協力、ご指導をお願い申し上げます。

**Fellow of the SID**

鈴木 幸治 (株式会社 東芝)

このたび TFT-LCD の研究開発に対して Fellow Award をいただきました。SID 日本支部の皆様のご支援に感謝するとともに、長年研究開発をともにしてきた職場の仲間にお礼を申し上げます。TFT-LCD の研究を始めた 1980 年よりアモルファス Si-TFT、低温ポリシリコン TFT を用いた LCD の開発に携わり、事業部の支援も行ってきました。この間、SID はもっとも利用させていただいた学会のひとつであり、今後とも SID の発展のために尽くしていきたいと思っております。また、新しいディスプレイを目指してチャレンジしたいと思っております。

**Fellow of the SID**

近藤 克己 (株式会社 日立製作所)

この度は大変に名誉な賞を頂き、下平先生を始めご推薦、ご尽力頂きました関係者の皆様から心から御礼を申し上げます。また、今回の受賞理由に、広視野角液晶ディスプレイの最初の製品化を導いたと付記して頂いたことは大変に名誉なことと、関係者一同感激している次第でございます。

私事で恐縮ですが、SID との出会いについて紹介させていただきます。学生時代に液晶の研究をしておりましたが、博士課程の最終年(1982年)に米国の液晶研究者を訪問する計画を立てました。小林先生(当時農工大)にご相談し、ベル研の Cladis さんを初めたくさんの方々をご紹介頂きました。ベル研訪問時にお会いした

Berremans さんが SID への参加を強く勧めて下さり、これが最初の出会いとなりました。開催地サンディエゴでの印象は新鮮でした。研究対象の液晶がもしかしたら産業になるかもしれない、これに賭けてみようかと考えました。これが大きな転機となり今日に至っております。これからも、ディスプレイに係わって参る所存です。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

**Special Recognition Award**

小牧 俊裕 (パイオニア株式会社)

このたびは PDP のワッフルリブ構造の開発に対して、名誉ある Special Recognition Award を頂きましてありがとうございました。PDP も成長期に入りましたが、ワッフルリブ構造を製品化し、IDW'99 にて発表したときに、多くの方々から生産が難しいのではないかと、お問い合わせがありました。しかし、「とにかくやってみてください、ワッフル構造のメリットがわかりますから」とアピールしてきたつもりです。今日、ワッフルリブ構造に類似した構造が、発効効率の向上、隣接セルへの影響が少ないなど性能的なメリットが認められ、業界のスタンダードとなってきました。温故知新という言葉がありますように、技術としては古くから知られていたかもしれませんが、それを違った形で生かしていくことも重要です。今後ともさらなる技術革新を目指していきたいと思っております。最後に関係者に厚く御礼申し上げます。

**Special Recognition Award**

奥村 治彦 (株式会社 東芝)

“オーバードライブ技術のパイオニアである奥村さん”と受賞の紹介をしていただいたときには、“ここまで研究を続けてきて本当に良かった”と感動しました。振り返ると、本技術を、1990年に、当時は最大レベルのサイズであった 10.4 インチ液晶 TV の高画質動画表示技術として開発し、1992年の SID で初めて発表しましたが、いつも、誰か他の人が先に開発してしまうのではと、ハラハラドキドキしていたことを、ついこの間のように思い出しました。でも、小職の予想に反して、発表当時はほとんど注目されませんでした。それでも、“継続は力”と、この技術を信じて研究開発を続けてきたことが、今では、ほとんどすべての液晶 TV に搭載される基盤の駆動技術になった最大の要因だと思っています。我々

は、最近、本技術をさらに進め、“まさか”といわれていた“ソフトウェア”での実現に成功しました。これは、技術的には、ネット上で、このソフトを配信することで、世界のすべての人が簡単に、LCD の動画を綺麗に見ることができることを意味し、もっともっと広く社会に貢献できる夢のような技術になります。最後に、受賞に際してご尽力いただいた皆様と、このような場を与えていただいた方々より感謝いたします。どうも有難うございました。

## SID日本支部学生会員へのIDWにおける成果発表支援制度

SID 日本支部では、学生会員への IDW における成果発表支援を開始いたします。会員の方は、奮ってご応募ください。

### SID 日本支部学生会員への IDW における成果発表支援制度

2004 年 7 月 29 日施行

- 1) 制度の目的: SID 日本支部の健全な発展と SID 日本支部の学会活動の活性化を図ることを目的に、IDW において成果発表を行う学生会員の参加を支援する。
- 2) 対象学会・会議名: IDW
- 3) 支援額: 支援額は、IDW における学生員の参加費程度とし、7 月に開催される評議員会で当年度の金額を決定する。
- 4) 支援対象学生: 上記対象学会にて、プレゼンティングオーサーとして研究・開発報告 (Oral または Poster 発表) を行う SID 日本支部に所属する学生会員。
- 5) 対象学生の選考: 下記選考委員会において対象学生員の選定を行うこと。
- 6) 選考委員会: 日本支部役員及び支部長が委嘱する適当数の正会員とで構成され、半数の出席により、会は成立するものとする。ここで、支部役員とは、支部長・副支部長・会計幹事・同補佐・庶務幹事・同補佐とする。
- 7) 申し込みと日限: 制度適用を希望する学生名、連絡先 (住所・電話・IDW の事前登録の有無) 等を明記した申請書を、指導教員等の推薦状を添付し、庶務幹事宛申請する。規定会合の開始日から逆算し 30 日前を持って締め切るものとする。
- 8) 支払い (代理受理の禁止): 支援費用は、当該学会開催中に、本人を確認できる学生証等の提示を以って、手渡される。代理は認めない。
- 9) 権利の放棄: 規定会合期間中に受領の申し出の無かった対象者は、権利を放棄したものとみなす。
- 10) 多重受給の禁止: 他の支援制度を受けている学生は本制度適用外とする。
- 11) 氏名の公表: 本支援制度の適用を受けた学生の所属・氏名・成果題目等は、適宜支部出版物等で公表する。

覚え書き:

1. 2004 年度の支援金額は 1 万円とする。
2. 論文投稿時と異なる者が代理発表する場合には、会議開催の一週間前までにその旨の情報と指導教員の証明が文書または E-mail により連絡されない場合には、代理発表する者に対して本制度は適用されない。
3. 学会の発表会場で本人を確認し、支援金を IDW 事務室で手渡す。

申請書、推薦状の用紙は SID 日本支部ホームページ <http://www.sidchapters.org/japan/J-menu.htm> よりダウンロードできます。

送付先: 〒242-8502 神奈川県大和市下鶴間1623-14 日本アイビーエム東京基礎研究所 長谷川雅樹  
e-mail: hasegawa@jp.ibm.com

## IDW'04 チュートリアルについて

2004年度もIDWチュートリアルを開催いたします。この講習会の対象者は、ディスプレイの初学者及び自身の専門とは異なる分野について新たに学ぶ方々で、各分野に精通した講師の方々にIDWのホットトピックスの背景について解説して頂きます。SIDの会員でない方も歓迎いたします。

日時: 2004年12月7日(IDW'04開催前日)

場所: 新潟コンベンションセンター

参加費: 資料代金として¥1,000

問い合わせ先: idw-tutorial@ml.labs.fujitsu.com

編集後記

次世代のディスプレイの姿について今後とも考えて行きたいと思います。ご意見、ご要望をお聞かせください。

編集担当: 市田耕資 (ソニー)

電話: 046-226-2505, FAX: 046-226-2451